
【1】“秋の号”発行にあたり

＊ ＊

特定非営利活動団体 東京高次脳機能障害協議会
理事長 今井雅子

いつまでも暑いと思っていたら急に冷え込み、天気予報は「12月の気温」とのこと。これからも夏の酷暑は続きそう、日本の四季が無くなるのではないかという話もあり、私たちの生活が確実に地球の環境を変えてきていることを憂い、将来を思う毎日です。

夏には東京都への「予算要望書」を提出しました。それに先立ち都議会の各会派のヒアリング等で、私たちの思いと現状を伝え、ご意見やアドバイスもいただきました。

また「医療及び家族相談会」は、都心障と慈恵第三病院のほか荻窪にある言語生活サポートセンターを会場に加え、年9回の予定で実施しています。

TKKの柱の一つである「高次脳機能障害実践的アプローチ講習会」も第1回目の開催が、11月26日に迫っています。以前のような会場での開催も検討しましたが、コロナに加えインフルエンザも流行っている状況を見ると、思い切ってZOOMウェビナーによる開催にして良かったと思っています。

第2回目のお申し込みは、12月25日～1月8日(12月28日～1月4日の期間は事務局の休み)と年末年始の忙しい時期ですが、どうぞお忘れの無いようふるってご参加ください。 <https://forms.gle/4yyuMfnBwwBDUbsf7>

【2】TKK活動

＊ ＊

<2023年度 TKK主催:医療及び家族相談会>

詳細並びにお申し込みは下記から

http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=250

2023年 12月10日(日)	会場:東京都心身障害者福祉センター 研修室
2024年 1月14日(日)	会場:株式会社 言語生活サポートセンター
2月25日(日)	会場:東京都心身障害者福祉センター 研修室

<高次脳機能障害実践的アプローチ講習会>ZOOM ウェビナー開催

詳細並びにお申し込みは下記から

http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=251

今年度2回開催

1回目 2023年11/26(日) 座長:渡邊 修 氏

- | | |
|--|---------|
| ①『名古屋市総合リハビリテーションセンターの現在の取り組みと 高次脳機能障害者支援法に期待すること』 | 鈴木 智敦 氏 |
| ②『失語症のある方へのコミュニケーション支援と意思疎通支援制度について』 | 安保 直子 氏 |
| ③『交通事故後のリハビリテーション治療』 | 渡邊 修 氏 |

2 回目 2024 年 1/21(日) 座長:渡邊 修 氏

①『法律ができたなら何をすればいいの? ~法律を活かすために~』

又村 あおい 氏

②『高次脳機能障害のある方へのグループホームの展望と課題』

山河 正裕 氏

③『高次脳機能障害者の就労・復職に向けた職業リハビリテーション』

松為 信雄 氏

【3】加盟団体等の活動

* *

高次脳機能障害者と家族の会

● 25 周年記念講演会

11/5 「どうする将来 ~介護者なき後を考える~」 会 場:エッサム本社ビル4階

講 師:相良 宏司氏 東京高次脳機能障害者支援ホーム HiBDY.TOKYO 施設長

《施設入所から地域生活移行 ~特にグループホームへの移行について~》

講 師:渡部 伸氏 「親なきあと」相談室/行政書士・社会保険労務士

《高次脳機能障害のある方の将来のお金と生活》

====この 25 年の間でずっと続いている私たちの最大の課題は「介護者亡き後」のことです。

国もグループホームに力を入れ、いろいろな種類のものが出来てきています。しかしグループホームは終の棲家にはならず、医療が必要になったり、高齢化してきた時、担当職員の交代やグループホームの運営母体が変わった時、環境の変化に弱い当事者たちは、そのまま住み続けることが出来ない状況が起きています。

高次脳機能障害のある人が介護者のいなくなった後、どう暮らしていけばいいのか? 介護者がいるうちに何をしたらいいのか? 25 周年に当たって、「どうする将来」と題して、改めてみなさんと一緒に、学び、考えました。

==== 高次脳機能障害者と家族の会 代表 今井雅子

みなと高次脳

○定例会

・12 月 12 日(火) 家族交流 café 会場:六本木周辺港区立施設 ランチ付き(会員外も参加可能)話を聴く、尋ねる、確認するなど日頃の課題の解消・整理を少人数で交流活動。

・2024 年 2 月 3 日(土) 外出訓練支援 サロンカーという観光バスで郊外へ日帰りツアー

(場所は決まり次第 HP にアップします。) <https://yykoujinou.com/>

ハイリハキッズ

○11 月 19 日(日)キッズネットワーク交流会

====キッズネットワークは、日本高次脳機能障害友の会に加入している家族会の中で子どもの支援活動に取り組んでいる家族会代表らが情報交換を行っている会です。ハイリハキッズが中核的な役割を担い、これまで宿泊イベントやピアサポーター養成研修会を行ってきました。今年是一般社団法人損害保険協会から助成いただき、ハイブリッド形式で交流会を開催しました。ハイリハキッズとジュニアのメンバーは対面、その他の家族会の方々はオンラインで参加、参加家族数は 29 家族でした。支援者の先生方も多数ご参加いただきました。

・親子で学ぶてんかん学習会

講師に看護師の山口規公美氏をお迎えし、講演とグループワークを行いました。講演はてんかんの基礎から、てんかん発作時の具体的な対応、向き合い方などをお話いただきました。

質疑応答を兼ねたグループワークでは、それぞれ抗てんかん薬を持参して話し合いました。

山口さんは「発作の前兆を感じた時に『くるな、くるな』と発作が起きないように念じる」など、自分でできる具体的な対処方法をわかりやすく説明くださいました。息子は「倒れた時の話がよかった」と言っていました。てんかん発作時に意識が消失しているので、発作時や予後への不安が軽減したようです。

・家族会活動報告会、グループトーク

北海道、富山、埼玉、愛知、長崎、福岡、神奈川、東京の家族会メンバーがそれぞれ活動報告を行いました。神奈川のアトムの会、ハイリハジュニアは、20代の当事者が発表しました。アトムの会のS君職務上における業務の優先順位のつけ方について質問しました。難しいながらも日々努力を重ねている様子を話してくれました。ハイリハジュニアのU君も、発表後の休憩時間に会場から質問攻めを受けていました(笑)S君とU君は学生の時から共に活動してきた仲間です。立派に成長され、胸が熱くなりました。

グループトークでは「困っていること」をテーマに話し合いました。会場ではハイリハキッズメンバーが集まり、子どもたちはキッズタイム(保育活動)に参加。クリスマスカードを作成し、披露しました。

私たち親にとって、子どもたちの「笑顔」は何よりも大事な宝ものです。我が子が脳に障害を負い、笑顔を失った経験があるからです。我が家は息子が成人となり「キッズ」ではなくなりました。娘はキッズタイムの運営を行うキッズタイムリーダーを引き継ぎ、親子で先輩家族として活動しています。今年度は受傷・発症して間もないご家族が何組も参加しています。今後も支援者の先生方からアドバイスをいただきながら、皆さんと共に活動していきたいです。

===== TTK 理事 中村千穂

世田谷高次脳機能障害連絡協議会

○『春の音コンサート 2024 ～高次脳機能障害のハードルを越えて～』

日時:2024年2月18日(日) 13:00~15:30(12:30 開場)

会場:世田谷区立保健医療福祉総合プラザ 1F ふれあいカフェ うめとぴあ 世田谷区松原 6-37-10

無料

◇問合せ: sekouren@gmail.com 090-3518-3876(今井)

世田谷高次脳機能障害連絡協議会では、活動目的の「高次脳機能障害者が主役となって輝ける場を創る」ということの一つとして2008年より開催しているコンサートで、16回目となります。人生半ばでこの障害を持ち、絶望や悲しみの中から新たな一歩を踏み出しているみなさんの晴れの舞台です。今年も昨年同様、「ふれあいカフェ うめとぴあ」で開催します。フラットなフロアで出演者も観客も一体になることができる明るい雰囲気のある会場です。

昨年は観客でいらした当事者の方が、失語症の方々の素晴らしいコーラスを聞いて「もう歌えないかと思っていた」と感動して、その自主グループに入会されたという嬉しい出来事もありました。橋本圭司先生のミニ講座もあります。今年も多くの感動とエネルギーのおすそ分けをどうぞご期待ください。

交通事故被害者家族ネットワーク

○「脳外傷者の支援とプランニング」

12月10日(日)14:00~16:00 ハイブリット形式

会場: JA 共済ビル カンファレンスホール

講師: 古田 兼裕 氏、瀧澤 学 氏、品田 雄市 氏、相山 恭子 氏

締切: 12/6

詳細並びにお申し込みは下記から

https://www.jaswhs.or.jp/images/NewsPDF/NewsPDF_vw1W4vYDiST8t5NQ_1.pdf

【4】行政、他団体の活動

* *

○青梅市障がい者サポートセンター

「障害者虐待防止法に通じて、私たちが考えること」

12月6日(水)13:30～ WEB

◇問い合わせ: tel 0428-30-0152(青梅市障がい者サポートセンター)

詳細並びにお申し込みは下記から

<https://oume-support-center.amebaownd.com/>

○府中市地域生活支援センターあけぼの

高次脳機能障害者支援促進事業 2023 年度学習会 WEB 配信無し

「曙光園の取り組み 高次脳機能障害・身体障害の方の地域生活の移行」

12/6(水)19:00～20:45 会場: 府中市市民活動センタープラッツ 第2会議室

講師: 曙光園スタッフ

◇お申込み: 電話: 042-358-1085 Eメール: siencenter@akebono.fuchu.tokyo.jp

◇締め切り: 11/29(水)

詳細並びにお申し込みは下記から

https://akebono-fukushi.com/contents/cont_180.pdf

○国分寺市障害者センター

「もう一度、社会の役に立ちたい ～多様な働き方による社会参加を支える取り組み～」

主催: 社会福祉法人万葉の里 地域活動支援センターつばさ

日 時: 12月9日(土)13時から15時

参加方法: 当日会場で参加、後日 YouTube 配信を視聴

講 師: N 氏(高次脳機能障害当事者)、中村由美氏、長谷川京子氏、蟹江こうじ氏

詳細並びにお申し込みは下記から

<https://www.manyounosato.or.jp/info>

○<北多摩北部高次脳機能障害支援普及事業> 医療福祉従事者向け研修 WEB 配信無し

「高次脳機能障害に対する ICT の活用」

12/8(金)19時～20時30分 会場:東京病院 外来診療棟2階 大会議室 締切:11/30

講師:東京病院 言語聴覚士 中村菜都美氏

詳細並びにお申し込みは下記から

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScfllic26Q8rtvIEjksQAEkAWOkBWhTgw5fla_524JmjW45Og/viewform

○「失語症の方といっしょにみんなの勉強会」 主催:失語症会話パートナーの会 若竹の子

日 時:12/9(土) 午後1時30分～3時30分(1時開場)

場 所:東村山市社会福祉協議会 東村山市野口町1丁目25-15 地域福祉センター

定 員:会場は20名 オンラインは20名

ハイブリット形式 *会場の都合上、オンライン参加をお勧めいたします。

内 容:意思疎通支援事業を利用している失語症の方を多摩市、世田谷区からお迎えします。

ゆっくりとした座談会でみんなの思いを語り合しましょう。座談会司会:塚田賢信(言語聴覚士)

◇申 込:電話 042-397-0737 木崎(留守番電話の時あり)

申込受付:10月15日(日)より11月30日(木)(定員になり次第締切)

◇問合せ:電話(申込方法と同じ) またはメール: shitsugo.kouza@gmail.com

[申込みフォームはこちら](#)

○<第2回北多摩南部圏域研修会 東京都高次脳機能障害支援普及事業> WEB 配信

「高次脳機能障害者の支援の仕組みと理念」 主催:東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリテーション科

12/10(日)13時～16時

●講演 1 高次脳機能障害者支援の仕組みと理念

東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリテーション科 渡邊 修 氏

●講演 2 高次脳機能障害のある方の支援のコツ

社会福祉法人 世田谷ボランティア協会 ケアセンターふらっと 高次脳機能障害相談員 川邊 循 氏

●症例検討 甲州リハビリテーション病院における自動車運転再開支援 ～重度の記憶障害を呈した事例の運転再開支援とその後～

甲州リハビリテーション病院 作業療法士 三澤 陵

◇お申込みは下記 URL から:

<https://forms.gle/YtCKVXwTQjNVLL5w5>

定員:100名(100名になりましたらご参加を打ち切らせていただきますことをご了承ください。)

○令和5年度 豊島区高次脳機能障害講演会

事故や病気などで 高次脳機能障害 障害年金制度 になったときに生活と働くを守ってくれる障害年金制度

12/15(金)14:00～16:00 豊島区立心身障害者福祉センター3階 大会議室 (豊島区目白5-18-8)

講師:YORISOU 社会保険労務士法人 代表社員 松山 純子氏

◇申込締切日:12/8(金)

◇お問い合わせ :豊島区立心身障害者福祉センター FAX 03-3953-9441

Eメール A0015702@city.toshima.lg.jp 電話 03-3953-2811

○ソーシャルサーカス・ワークショップ 港区

主催: Kiss ポート財団(公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団)文化芸術課

日にち: 各回参加可能 12月18日(月)、1月20日(土)、2月19日(月)、3月16日(土)

◇問い合わせ: TEL/FAX: 045-642-6132 (平日 10:00-17:00 FAXは24時間対応)

障害の有無に関わらず参加できるサーカス技術の手法を中心にした自尊心、コミュニケーション力を育むプログラム。

ホームページイベント名「ソーシャルサーカス」(区外の方もお申込みいただけます)

事前申し込み必要、詳細やお申し込みは下記公式サイトから

<https://www.slowlabel.info/6926/>

●第15回滋賀県高次脳機能障害リハビリテーション講習会(一般社団法人日本損害保険協会助成事業)

11/12「なんや? あの人...~その人の態度や行動をわかって下さい~ ハイブリット形式 北ビワコホテルにて

主催: 滋賀県高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会

共催: 一般社団法人なないろ 高次脳機能障害友の会しが

詳細は下記から

<https://shiga-ot.jp/info/6831.html>

==== 講習会は実行委員長の川上寿一先生の開会挨拶に始まりました。

第1部 シンポジウム「家族の体験談」

当事者は学生時代に交通事故に遭われ、現在40代。

当事者のお話『短所はよく切れること。上から目線で言われる感じは嫌で、腹立たしくなります。職場で賃金がもらえることより、言われないほうが良いと感じてしまいます。長所はいろんな人と接点を持つことが出来たことで物事を多角的にみられるようになったことです。』

続いて母親のお話『交通事故後意識が戻らない状況が続き、その後やっとの思いで退院したものの、思うように話せず、感情的になることもあり、仕事に就いても、長続きしませんでした。高次脳機能障害の方には長い時間のリハビリが必要で、サポートは生涯必要です。当事者に翻弄されている家族へのサポートも必要です。』

第2部 講演「困らせる人が 困っている人 ~社会的行動障害~」

(国立障害者リハビリテーションセンター顧問 深津玲子先生)

『問題行動とは誰から見てなのでしょうか? 周りの方が問題行動と思う時、それは本人が困っているサインです。周囲の方は、何に困っているのか気づいてあげて欲しいのです。支援者と当事者が一緒にいる時間が長くなると、当事者がぼつぼつと言うことから何が言いたいのか想像出来るようになります。言語にするには認知機能を使いますが、当事者は上手く表現できないことも多いのです。当事者と支援者との信頼関係を築くことが大事です。』と話されました。

障害支援区分へと話は続きました。『現行の障害支援区分認定調査だけでは、支援困難度が反映されにくく、サービス利用基準に満たないことがあります。現行の障害支援区分調査項目のうち行動障害に関連する34項目と新たに追加した9評価項目を合わせて43項目とし、また各項目を「必要な支援の頻度」「重症度」「介護負担度」「介入による変化」の4軸で評価する支援困難度評価表も作成しました。考察としまして、例えば「被害的・拒否的」「暴言暴行」については障害支援区分が低く出てしまいますが、実際には介護負担度は高いのです。負担度が高いのに障害支援区分が1にならないこともあります。これは身体障害を含めた判定になるためでしょうか。どんなサービスがあれば良いのでしょうか、整備があればいいのでしょうか。』と話されました。

支援区分に介護負担度が反映されることを願わずにはおれない貴重な講演会でした。

====TKK 理事 伊地山敏

●『当事者達の活動団体<明日に希望を灯す実行委員会>』報告

====当事者達の活動が『第18回マニフェスト大賞優秀賞・グッドアイデア賞』を受賞！

全国3,000件を超える事例から、高次脳機能障害当事者8名が始めた『明日に希望を灯す動画作成委員会』活動の事例が受賞しました。『マニフェスト大賞』とは、地方自治体の議会、首長、市民等による、地域の民主主義向上に資する優れた取り組みを対象にした活動を評価する賞です。8部門ある中でも『グッドアイデア賞』では、新規性や創造性にとんだ優れたアイデアや政策提言等を表彰しています。

マニフェスト大賞審査委員の広瀬克哉(法政大学総長)は『当事者が自ら内容を構成し、医学考証を加えたうえで、当事者が語って動画収録し、支援者と共に編集作業を実施し公開するという組み立てにより、当事者を中心とするネットワークを広げ、このギャップを受けることにつなげようとしている取り組みが、高く評価されました』と綴っています。

委員会一同おおいに喜び、これからの活動に更に意欲が出ました。

高次脳機能障害を負いながらも、社会復帰された皆様、そのプロセスを動画にしてみませんか。

もちろん作成はお手伝いします。参加者募集中。

この『明日に希望を灯す動画作成委員会の活動』とは？

下記のホームページを是非訪れてみてください。

<https://www.asu2kibouwo.com/>

====明日に希望を灯す実行委員会

●<港区主催高次脳機能障害理解促進事業 講演会>

11/18「会話は共同作業～失語症の方とよりよいコミュニケーションをとるために～」

講師：宇野園子氏(言語聴覚士)

====「失語症はストレスから来るものと思っている人が実は多いんです」との講師からの説明、失語症を知っている方からすると意外に感じる言葉から始まりました。

高次脳機能障害の発症部位の話から、失語症症状への具体的な対応の話になり、特に後半は演習のような形でした。話し方のコツはゆっくり・はっきり、それを隣の受講者と向き合い伝えてみる。文字で伝える時のコツは平仮名より分かりやすい漢字、単語で1行ずつ表示、実際に例題を白い紙に書いてみる。そして身振り手振りも入れてみるとのこと、エッ？体も使う？「血圧が高い」の身振りは顔より手を上に揚げ「風呂はダメだよ」の身振りは胸の前でバツを示す。なるほど！文字と身振りでより分かり易くすると伝わりやすいと知る。他にもコミュニケーションを助ける印刷物も使用したり写真も多用したりと、周辺にあるものが色々使えることも知りました。途中、講師が受講者の間を回り「今の言葉は伝わりませんでしたので、他の言い方をしてみてください」「答え易くしてもらうにはどのような質問をしますか」などなど、次々に頭を使う設問が出てきて、とっても興味深く参加できました。

今まで、どれだけダラダラと文字を綴りメールを流していたかと反省。実践的な講演会の展開にしてくださった宇野講師に感謝します。

最後に配布の資料にあった言葉をお伝えします。

「投げるのが苦手な人には、受け取る人が上手になろう。受け取るのが苦手な人には、上手に投げてあげよう」

====TKK 理事 高井玲子

【5】TKK 加盟事業所訪問報告 第2回 「リハス」東京大塚
第3回 栄福社会

**

TKK の加盟団体は 30 団体ですが、そのうち 10 団体は(家族会ではなく)サービスを提供する事業所さんです。会員の事業所さんを順次訪問してお話を聞かせて頂きます。

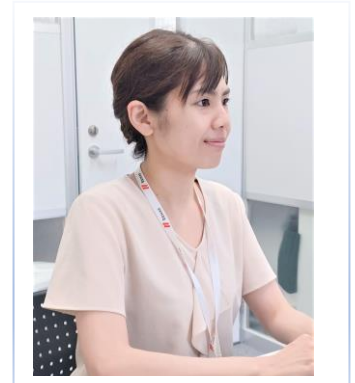
第2回「リハス」東京大塚

9 月上旬、山手線大塚駅徒歩数分の事業所にお伺いし、サービス管理責任者/PT の大橋綾菜さんにお話を伺いました。

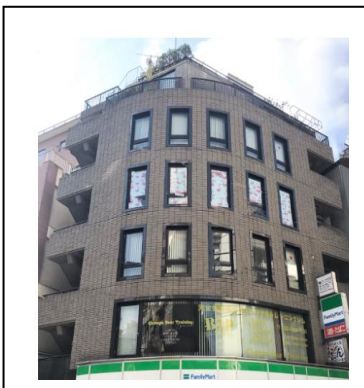
【(株)リハスのプロフィール】 HP: <https://rehas.co.jp/>

経営母体の(株)リハスは 2012 年に金沢で創業。その後全国に事業所を展開しています。事業は訪問看護、就労継続支援 A 型、就労継続支援 B 型、就労移行支援など、様々なサービスを提供し、“ご利用者さまの真の QOL 向上にむけての支援を行う”ことをミッションに掲げています。

「リハス」東京大塚様と同様の就労移行支援施設は、2018 年名古屋、その後東京、金沢、浦和に開設しています。



【「リハス」東京大塚の概要、現状をお聞きました】 HP: <https://rehas-job.rehas.co.jp/place/tokyootuka/>



・正式名称は脳卒中・身体障害専門就労支援センター「リハス」東京大塚で、2019 年 1 月にサービスを開始しました。その名の通り脳卒中で脳や身体に後遺症を患った方の復職や新規での就労支援を行っています。

定員は 20 名、山手線の大塚という東京都の真ん中で、利用者は都内各地、また埼玉からも来られています。通所は出社を想定した通勤訓練にもなり、電動車椅子を使用して来られる方もいます。通勤ラッシュを考慮し、10 時から朝礼が始まり訓練に取り組んで頂いています。

2019 年にサービスを開始しましたが、その後コロナ禍に直面しました。体調面を考慮し、在宅、PC を使ったリモートのプログラムを取り入れる等様々な工夫をしており、その時の

経験が現在も大いに役立っています。

・利用者のほとんどが高次脳機能障害がある方です。ご利用初期に常駐しているリハビリテーション専門職(PT/OT)による身体機能、高次脳機能、日常生活、動作・作業遂行能力の**アセスメント**を実施し、それに基づいた就労支援計画を立てます。利用者の障害の程度や能力に応じた個別訓練は、医学的視点に基づいたさまざまな職業リハビリテーションによる就労支援を実施しています。在宅就労を目指される方には適性を確認し、在宅での就労訓練も活用しています。また就労後もきめ細かいフォローを心掛けています。このような取り組みの結果、サービス開始 4 年で**就職率 85%、定着率 97%**を達成しています。

同じビルに多機能事業所の**就労継続支援 B 型事業所 リハスワーク豊島**があります。リハスワーク豊島の利用者が就労を希望する場合、アセスメント実施後、就労移行の「リハス」大塚へ移り、就職活動に専念することができるのも特徴の一つです。



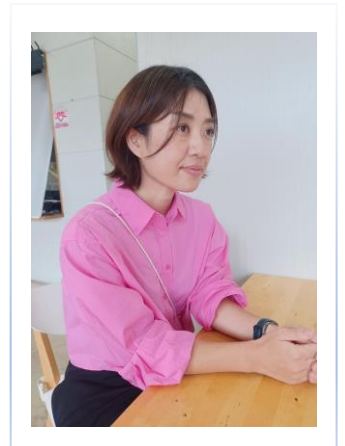
第3回 栄福社会

9月中旬、立川市にある栄福社会にお伺いし、就労B/就労移行事業管理者の齊藤彩花さん(社会福祉士、精神保健福祉士)にお話を伺いました。

[一般社団法人栄福社会のプロフィール] HP: <http://sakaefukushi.jp/>

医療関係者有志と高次脳機能障害の家族が発起人となり2012.4に発足、キッチンさかえ/就労B型で食事を作り、通所介護サポータイズさかえ/高齢者デイサービスに提供するというコンセプトでスタート。その後事業を拡大し、就労移行支援/ソレイユ、ケアマネジement/介護相談ケアサポートさかえの4事業となった。

高次脳機能障害を中心とした障害者支援と介護保険のサービス・ケアマネ機能を有し、障害・高齢、両方の支援をされているという特徴をお持ちの法人です。



[栄福社会の現状・活動をお聞きました]

就労B型は定員24名、登録の利用者さんは26名(女性8、男性18)で、約8割の方が高次脳機能障害をお持ちの方、知的障害の方が数名いらっしゃいます。



就労B型はキッチンさかえで働く方と製品作りなどの作業を中心とする方が半々です。キッチンのご来店のお客様だけでなく、コロナ禍の時に始めたお持ち帰り弁当、仕出し弁当が好評です。キッチンでは調理、接客、レジ係りと、利用者さんのご希望、適性に合わせた仕事をしていただいています。

作業では販売する商品作りに力を入れていて、ミシンを使った小物など、変わったものでは着火剤を作っています。これは地元の材木屋さんの木くずと葬儀会社さんがご葬儀の際に使用したろうそくの残りを加工したもので、地元の材料を有効に活用させていただきます。作業スペースは電動車いすが使えるよう、レイアウトに工夫して

います。これらの作業には地元のボランティアさんにご協力いただいています。そもそも事業所が入っているこのビルも、地元のオーナーさんのご理解を頂いて、3フロアのうちの半分をお借りしていて、大変助かっています。

高齢と障害サービス、両方を提供していますと、障害から高齢、あるいはその逆のケースもあり、その場合、馴染みのある同じ場所に通うということで、利用者さんに抵抗なく受け入れていただけるようです。

今後とも地元を支えられ、地元を支える施設、サービスを提供していきたいと思っています。



=====

報告者

TKK 理事 矢野久喜